

ニホンジカの保護及び管理に関するレポート(平成 29 年度版) 骨子案

※レポートの策定方針

平成 29 年度のニホンジカ全国個体数推定では推定生息数が減少傾向に転じており、また、特定計画においても生息状況を減少としている都道府県が前期計画よりも増加している。

北海道では東部の生息数が 1998 (平成 10) 年度頃に対策の成果により、いったん増加から減少傾向に転じたが、2001 (平成 13) 年度頃に再び増加傾向に転じた。※近年では減少傾向を維持

先行事例である北海道がいったん減少傾向から再び増加傾向に転じた原因を分析し、現在、生息状況について減少を示している都道府県が今後更に捕獲を推進するにあたっての留意点を取りまとめる。

●2015 (平成 27) 年度から 2017 (平成 29) 年度までのニホンジカの保護・管理をめぐる動き

- ・ 特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン改訂
- ・ 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律の一部を改正する法律の施行
- ・ 特定計画の改定・新規策定
- ・ 指定管理鳥獣捕獲等事業の実施

●今年度のレポートのテーマ

- ・ 捕獲推進に向けて過去の事例から学ぶ留意点 (北海道の事例紹介)

●事例選定の理由

現状

- ・ 全国のニホンジカの個体数推定について
- ・ 特定計画等からのレビュー

選定理由

- ・ 先行事例として北海道を選定した理由

●捕獲推進に向けて過去の事例から学ぶ留意点 (北海道の事例紹介)

北海道におけるエゾシカ生息数の推移

- 生息数のピーク (1 回目)
 - ・ 北海道東部の生息数は、1998 (平成 10) 年度頃に増加傾向から減少傾向に転じた。
- 生息数のピーク (2 回目)
 - ・ 2001 (平成 13) 年度頃に増加傾向に転じたが、東部及び西部の生息数は 2011 (平成

23) 年度頃から再び減少傾向に転じ、近年は減少傾向を維持している。

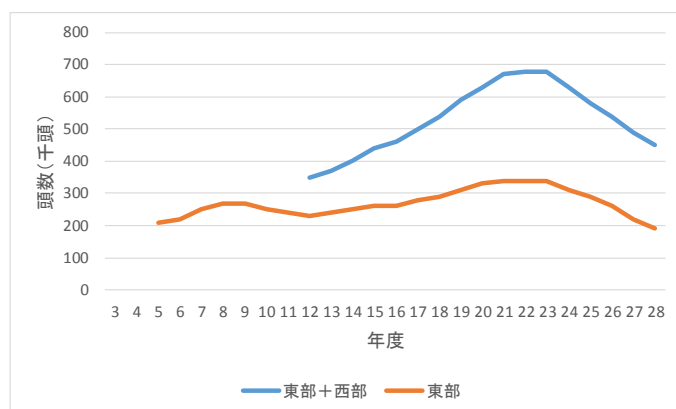


図 北海道におけるエゾシカの推定生息数の推移

北海道におけるエゾシカ対策の経緯

- 1998（平成 10）年度までの捕獲推進の経緯
 - ・道東地方を中心に、昭和末期から生息数と農林業被害が増加した。
 - ・エゾシカ対策協議会を設置し、「道東地域エゾシカ保護管理計画」を策定した。
 - ・狩猟や許可捕獲の規制緩和、許可捕獲に対するメスジカの捕獲助成を行った結果、1998（平成 10）年度には捕獲数の大幅な伸びを記録した。
- 1999（平成 11）年度以降の個体数推定の結果と捕獲推進力の低下
 - ・2000 年代前半頃までは、ライトセンサスによる一般線形混合モデルの生息推定値をベースにした個体数指数を推定しており、1999（平成 11）年度以降の推定結果では減少傾向を示した。
 - ・許可捕獲数は伸び悩み、事業効果が薄れたと判断し、2002（平成 14）年度で許可捕獲に対する助成を廃止した（狩猟の緩和措置は継続）。
- 個体数推定手法の改良と生息数の増加
 - ・2008（平成 20）年度には、個体数推定手法の改良等で個体数推定精度が向上し（雌雄を考慮したベイズ推定）、東部地域では 2002（平成 14）年度頃から再び生息数が増加し、西部地域では生息数が急激に増加していることが明らかになった。
 - ・可猟区の拡大やメスジカの捕獲数制限の撤廃など規制緩和、一部越冬地での道による捕獲事業による個体数管理を進めたが、生息数の減少には至らなかった。
- これまでの経験を踏まえた東部・西部地域における対策（生息数が多い地域）
 - ・2010（平成 22）年度から 2012（平成 24）年度の 3 年間に緊急対策期間に位置付けた（2014（平成 26）年度まで延長）。鳥獣被害防止総合対策事業の実施など、現行制度でのあらゆる対策を実施した
 - ・2014（平成 26）年 3 月に北海道エゾシカ対策推進条例を制定した。

- ・ 2012（平成 24）年度には捕獲数が全道で 14 万頭を超え、推定生息数はピークであった 2010（平成 22）年度の 68 万頭から減少傾向に転じ、2016（平成 28）年度には 45 万頭まで減少した。
 - ・ ベイズ推定では、前年度の推定生息数が翌年度の推定により増加してしまう上滑り現象が生じる場合があるが、近年の北海道では上滑りによる増加幅を越える生息数の減少を示している。
- これまでの経験を踏まえた南部地域における対策（分布拡大地域）
- ・ ヘリセンサス調査等から、南部地域に今後生息数の増加が懸念されるまとまった生息地が見つかったため、該当する市町村に対して個別に調査結果を説明し、過去の事例を紹介しながら早い段階で対策を検討することの重要性について啓発を行った。（そのうちの一つの市では鳥獣被害防止計画の捕獲目標数を大幅に増加させるに至った。）
 - ・ 捕獲数、ライトセンサスなどの調査結果をとりまとめて GIS 化した「エゾシカ現況マップ」を全市町村に配布し、情報共有と見える化を図っている。（北海道全域）。

1 回目の生息数のピーク（1997（平成 9）年前後）と 2 回目の生息数のピーク（2010（平成 22）年前後）の情報の比較

- 量的な情報の比較
 - ・ 推定生息数、農業被害額、捕獲対策事業費について
- 質的な情報の比較
 - ・ 捕獲体制、行政側の体制、法的支援等について

今後、全国で留意すべきポイント

- 生息数の目標達成まで継続して対策を実施する必要性